

2020年度版 (工事発注年度に合わせて、前のシート[2021年度版]かのいずれかをお選びください)

全体	●ASP他クラウド利用によりプロジェクトメンバーがプロジェクト文書にアクセス可能である。	√欄	必須/選択 ◎ この項目は必須
	●設計BIM/CIMモデルの活用 (工場製作を含む新設工事は必須とする。但し、保全工事や架設のみの工事は任意とする。)		
	1) 段階モデル確認書を活用してBIM/CIMモデルの品質を確保する。		◎
	2) 後工程における活用を前提とする属性情報を付与する。		◎
	3) 工期設定支援システム等と連携した設計工期を検討する。		◎
	4) BIM/CIMモデルを活用した自動数量算出する。		◎
	5) 契約図書としての機能を具備するBIM/CIMモデルを構築する。		◎
	6) 異なるソフトウェア間で互換性のあるBIM/CIMモデルを作成する。		◎
	7) BIM/CIMモデルを活用した効率的な照査を実施する。		◎
	8) BIM/CIMを活用して監督・検査を効率化する。		◎
	9) 後段階におけるBIM/CIMの効率的な活用方策を検討する。		◎
	10) その他(業務特性に応じた項目を設定)【内容を記載する】		◎
	小計	0	≧3項目
	必要項目数合計	0	≧4項目
製作段階	●生産計画・製造工程		
	1) 3次元モデルを有効活用する。 (構造検討・施工検討・施工計画などに活用)		○
	2) 部品・部材管理を電子化する。 (電子タグ、バーコード、QRコードなどの活用)		○
	3) ロボットスーツを導入する。		○
	4) NC工作機械 および ロボットを活用する。		○
	5) 目視膜厚判定のNOA塗装工法で施工する。		○
	6) 溶射施工システムを活用する。		○
	7) 特殊車両許可のオンライン申請を活用する。		○
	8) 車両運行管理システムを活用する。		○
	9) 上記以外のICT技術を活用する。【内容を記載する】		○
	小計	0	≧1項目
	●品質・出来形管理		
	1) 3次元モデルを有効活用する。 (VR/AR/MRを出来形管理・品質管理・精度管理に活用)		○
	2) 3次元計測を出来形管理に活用する。 (デジカメ計測・レーザー計測などを活用)		○
	3) シミュレーション仮組立を採用する。		○
	4) 出来形管理帳票(記録シート)作成を省力化する。 (タブレット・音声入力・電子ペンなどを活用)		○
	5) 立会確認等をリモートで実施する。 (リアルタイム情報共有システム・スマートヘルメット・ウェアラブル端末などを活用)		○
	6) ドローンを有効活用する。 (出来形管理・工事写真などに活用)		○
	7) 電子小黒板を活用する。		○
	8) 電子ミルシートを採用する。		○
	9) 上記以外のICT技術を活用する。【内容を記載する】		○
	●安全・訓練		
	1) 労務管理にBコン等を活用する。		○
2) 安全教育にVRを活用する。		○	
3) AR溶接訓練シミュレーターを活用する。		○	
4) 上記以外のICT技術を活用する。【内容を記載する】		○	
小計	0	≧1項目	
必要項目数合計	0	≧3項目	

架設段階	●施工計画		
	1) 施工計画書の自動作成システムを活用する。		○
	2) 計測・測量にデジカメを活用する。		○
	3) GPS (GNSS) 測量を使用する。		○
	4) 現地踏査・測量・計測に3Dレーザースキャナーやドローンを活用する。		○
	5) フェイズドアレイレーダーによる鉄筋探査を使用する。		○
	6) プロジェクションを墨出しに活用する。		○
	7) ユニットベントを使用する。		○
	8) パネル足場、移動足場を使用する。		○
	9) ICTクレーン (3D情報活用) を使用する。		○
	1 0) クレーン架設にモニターカメラ (死角確認用) を使用する。		○
	1 1) 資機材搬入・揚重管理システムを使用する。		○
	1 2) 多軸特殊台車架設誘導システムを使用する。		○
	1 3) 中塗り上塗り兼用塗料を使用する。		○
	1 4) 3Dモデルにより架設検討する。		○
	1 5) 上記以外のICT技術を活用する。【 内容を記載する 】		○
	小計	0	≧2項目
	●コンクリート工事		
	1) プレファブ鉄筋を活用する。		○
	2) 埋設型枠を活用する。		○
	3) ロボットスーツを活用する。		○
	4) 生産性・安全性の向上が図れるスペーサーを活用する。 (フィットコンスペーサーなどを活用)		○
	5) 片面で施工可能なボルト、ナットおよび治具を活用する。 (ヨネリング、IWナットなどを活用)		○
	6) 生産性・安全性の向上が図れる鉄筋継手を活用する。 (Tヘッドバー工法などを活用)		○
	7) 人力以外の方法で鉄筋等の資材を運搬する。 (キャリレール工法などを活用)		○
	8) 鉄筋結束機を活用する。		○
	9) 配筋検査に画像解析、AI等の技術を活用する。		○
	1 0) 生産性・安全性の向上が図れる現場での生コンの品質確認技術を活用する。 (自動スランプコーン引上装置、連続式RIコンクリート水分計などを活用)		○
	1 1) 生産性・安全性の向上が図れる内部振動機を使用する。 (自動運転式内部振動機などを活用)		○
	1 2) 充填確認にセンサや非破壊検査技術を活用する。 (赤外線サーモグラフィ法、ジューテンダーなどを活用)		○
	1 3) 生産性・安全性の向上が図れるコンクリート打継ぎ処理技術を活用する。 (KKシート工法などを活用)		○
	1 4) 出来形管理や床版平坦性計測にレーザースキャナ等のICT技術を活用する。 (コンクリートナビ・床版打設計測システム、床版平坦性計測システムなどを活用)		○
1 5) 生産性・安全性の向上が図れるコンクリート仕上げ装置・技術を活用する。 (フィニッシャー、床版仕上げロボットなどを活用)		○	
1 6) 高機能養生マットや自動散水システムを活用する。		○	
1 7) 養生の温湿度管理にセンサ等のICT技術を活用する。 (温度ロイド・養生温度管理システムなどを活用)		○	
1 8) 上記以外のICT技術を活用する。【 内容を記載する 】		○	
小計	0	≧3項目	

架設段階	●施工管理・安全管理		
	1) 重機作業の安全監視にGNSSなどを使用する。 (「施工領域安全監視システム」などを活用)		○
	2) GPSによる工事車両の運行管理システムを活用する。		○
	3) 車両、車両系機械接触防止センサを安全管理に活用する。		○
	4) レーザーセンサ、レーザーバリアを安全管理に活用する。		○
	5) 傾斜センサを安全管理に活用する。		○
	6) WEBカメラによる現場中継にて管理を強化する。		○
	7) 立会確認等にリアルタイム情報共有システムを活用する。		○
	8) ウェアラブル端末を活用する。 (立会確認等にスマートヘルメットを活用するなど)		○
	9) GPS付き安全帯を活用する。		○
	10) アラート機能付きの安全帯フックを使用する。 (イブロンIIやゲンチミテルなどを活用)		○
	11) ライフジャケット型エアバッグを活用する。		○
	12) MEMSセンサを活用する。		○
	13) ひずみセンサーシステム・タブレット転送を活用する。		○
	14) 目視膜厚判定NOA塗装工法を活用する。		○
	15) i-Houseを活用する。 (橋建協i-Bridgeにある現場情報を事務所で集中管理するシステム等)		○
	16) 総合気象観測ユニットを活用する。 (情報共有のために現場に気象観測機材などを設置)		○
	17) リアルタイム気象情報提供サービスを活用する。		○
	18) デジタルサイネージを活用する。		○
	19) ソーラータイプの電光掲示板等を活用する。		○
	20) 現地工程管理システムを活用する。		○
	21) タブレットや電子ペン等を活用し帳票を自動作成する。		○
	22) 電子小黑板等を活用する。		○
	23) 音声データによる出来形書類作成システムを活用する。		○
	24) 施工体制台帳管理システムを活用する。 (グリーンサイト等の活用)		○
	25) 業務日報のグループウェア化を適用する。		○
	26) 建設キャリアアップシステムを活用する。		○
	27) 上記以外のICT技術を活用する。【 内容を記載する 】		○
	小計	0	≧5項目
	必要項目数合計	0	≧7 ₍₁₀₎ 項目(コンクリート工等有)